

平成29年度実績報告の概要（小規模事業者経営支援事業費補助金関係）

団体名： 半田商工会議所

事業名	事業概要（背景・目的）	事業実績	主たる対象者	事業評価													
				目標①			目標②			得られた効果		A B C D評価				今後の展開・改善点等	備考
				指標	目標数値	実績数値	指標	目標数値	実績数値	総合評価	事業実施評価	調査結果	満足度	補足	目標		
巡回・窓口相談指導事業	地域内事業所の大多数を占め、本市商工業の基盤をなす小規模事業者の持続的発展に努める。また、創業・経営革新への積極的な支援・促進を実施する。このため、窓口での相談指導をはじめ、多様な小規模事業者の対応を高めるべく積極的に巡回相談指導を行い、7年で地域小規模事業者を一巡するとともに、事業所の課題を把握し、解決提案を図る事業計画を作成する伴走型支援を行う。	巡回・窓口指導（非会員） 実企業数 1,004 (42) 延べ指導件数 2,348 (73) 課題解決提案件数51 経営革新承認数 3件	小規模事業者	指標	巡回窓口指導延件数 (達成度 93.9 %)	指標	課題解決提案件数 (達成度 86.7 %)	小規模事業者の体改善支援及び各種施策等を行う事ができた。また、課題解決提案を51事業所に対応し、経営方向への支援をした。	総合評価	A	事業実施評価	自己評価 B 目標達成度 B	調査結果	満足度 A 必要性 A	補足	目標 両方下げる 実施方法 現行どおり	○
記帳継続指導	管内個人小規模事業者の自主記帳能力を養成し、小規模事業者の経営改善に資することを旨とし、記帳から決算申告に至る一貫した記帳継続指導を行う。また、電子申告に対応もしていく。	・指導事業所数 71事業所 ・指導延日数 528日 ・指導延回数 852回	小規模事業者	指標	指導事業所数 (達成度 101.4 %)	指標	指導延回数 (達成度 100.2 %)	経理事務の省力化の他、売上状況や経費等の速やかな把握により、経営改善策定や経営の方向性・営業方針の決定等に有効であった。	総合評価	A	事業実施評価	自己評価 A 目標達成度 A	調査結果	満足度 A 必要性 A	補足	目標 両方下げる 実施方法 現行どおり	
講習会等	市内事業所の大半を占める小規模事業者が抱える経営上の問題点を解決するために、経営知識の普及の方法として集団講習会を開催し経営の安定を図る。個別講習会は専門家相談を通じて、事業所の課題解決や事業計画策定・実行支援への助言・指導を行う。また、あいち産業振興機構や金融機関等との連携により、相談者発掘等を行う。	集団指導 8回 受講者101名（全体155名） 【参考：消費税軽減税率対策セミナー 22名】 個別指導 67回 受講者数76名（全体106名）	小規模事業者	指標	集団指導年間受講者数 (達成度 84.2 %)	指標	個別指導年間受講者数 (達成度 152.0 %)	集団指導は、地域中小・小規模事業者のニーズに応え、受講者には今後の経営安定の一助が期待された。個別指導は、地域小規模事業者が抱える課題を、専門家と交えた解決策を提出することで、地域振興と事業者の経営の安定に資することができた。	総合評価	A	事業実施評価	自己評価 B 目標達成度 A	調査結果	満足度 A 必要性 A	補足	目標 ①現状維持②上げる 実施方法 現行どおり	
創業支援	事業者は当地域経済の活力と雇用の維持の源泉を担っている。当地域の事業者数を増やすことで、地域の振興に資する。創業希望者の知識習得、創業計画策定を支援することで、スムーズな開業へと繋いでいく。	創業支援者数104名 管内創業者数7名 起業家支援セミナー・受講者数37名 ハンズオン支援者数0名 卒業生の集い14名	創業希望者	指標	創業相談延べ件数 (達成度 104.0 %)	指標	起業家支援セミナー受講者数 (達成度 123.3 %)	支援機関が創業に合う環境づくりを重視することで、事業者数の自然減を抑え、ともに地域の活力づくりに繋げている。創業計画作成を機とした継続的な伴走支援を実施することにより、創業後の安定的な経営及び変化に対応できる経営力の向上に繋がっている。	総合評価	A	事業実施評価	自己評価 A 目標達成度 A	調査結果	満足度 A 必要性 A	補足	目標 両方現状維持 実施方法 現行どおり	○
青年部・女性部事業	青年部は次代を担う青年経済人として、若手経営者・後継者・幹部職員等が、人格教養を高め、経営能力の向上と企業の発展を図るため、自己研鑽に資する研修事業と共に、商工会議所活動への参画、協力を通じて地域経済、地域社会の繁栄に貢献する。また、異業種交流の場としての活用で、会員相互の連携と人脈作りへと繋いでいく。また、女性部は、会員の資質向上を図るとともに、女性の視点から職業を通じた街の活性化に積極的に取り組む。	◆青年部：研修会4回開催、延233名。第八回はんだ山車まつり59名、4/18〜20/66名、突然サントラ60名。女性会との合同研修会60名。参加率：40.8% ◆女性部：はんだ蔵のまち夏まつり9名、親子教室17名、視察会11名、ひな祭り事業9名。参加率 42.5%	小規模事業者等における若手経営者（後継者等）並びに女性経営者	指標	青年部・女性会研修会事業参加率 (達成度 83.2 %)	指標	（達成度 %）	青年部は、1月研修会にて、東日本震災被災地である山元町、亘理町などを視察。津波の犠牲者、防災に際したの困難などを学ぶことができた。第八回はんだ山車まつりでは、青年部として他、数値には表れないが、山車関係者、出店者としても参加し、地域のにぎわいに貢献できた。また、女性部は3月にひな祭り事業を通じて地域貢献活動ができた。	総合評価	A	事業実施評価	自己評価 B 目標達成度 B	調査結果	満足度 A 必要性 A	補足	目標 現状維持 実施方法 現行どおり	
若手後継者育成事業（経営革新セミナー）	中小企業・小規模事業者を取り巻く経営環境は、消費者ニーズの多様化、価格競争の激化、情報化、国際化の進展等大きく変化している。今後、消費者ニーズにあった新商品開発や、新サービスの開発・提供等による経営革新は、非常に重要なものとなるため、青年経済人として、経営環境への対応能力を高めると共に、実践的な研修を通じて啓発し、事業の持続的発展を目的として、同セミナーを実施する。	講師に、伊藤慎悟氏（コンサルタント）を招き、7月19日（水）に当所にて開催。厳しい経営環境を打破するため、未来に対する明確なビジョンを持ち、それに向かって後た計画【経営戦略マップ】を作成。作成後に、受講者同士でグループワーキングも実施した。	会員事業所の若手経営者・幹部職員	指標	事業参加者数 (達成度 68.4 %)	指標	アンケート調査結果回収率 (達成度 125.0 %)	公開型研修会として実施したため、当所青年部会員のみにならず、当所会員、愛知県商工会議所青年部連合会所属会員等にも広く周知し、多くの青年経済人の気質を高められた。また、【経営戦略マップ】を作成したことで、自社目標を可視化し、確拠でき、経営を見据え支機になった。	総合評価	B	事業実施評価	自己評価 A 目標達成度 B	調査結果	満足度 A 必要性 A	補足	目標 両方現状維持 実施方法 現行どおり	
若手後継者育成事業（資質向上セミナー）	中小企業・小規模事業者を取り巻く経営環境は、消費者ニーズの多様化、価格競争の激化、情報化、国際化の進展等大きく変化しており、今後事業の持続的発展をするには、経営者を含めた役員等の判断が重要である。そこで、事業を営む女性・後継者として、接客をはじめ、正しい知識と基本のマナーを身につけ、事業運営に役立て、事業者の資質向上に資する。	講師に、小籠みき氏（女優・歌手）を招き、9月14日（水）に当所にて開催。接客業である講師の体験談を通しての講演であった。また、当所女性と青年部との合同研修会として実施。知多半島内の女性会・青年部会員に声をかけ、受講を頂いた。	小規模事業者等における若手経営者（後継者等）並びに女性経営者	指標	事業参加者数 (達成度 93.9 %)	指標	アンケート調査結果 (達成度 77.5 %)	女性会・青年部の初めての合同研修会で、人との付き合い方や人の顔・名前を覚えるコツを学ぶ事ができた。また、受講者からは「業種に関係なく役立つ接客のポイントを知る事ができた」、「相手を気遣うようになって」を改めて認識する良い機会となった」との回答を得た。	総合評価	A	事業実施評価	自己評価 B 目標達成度 B	調査結果	満足度 A 必要性 A	補足	目標 ①下げる②上げる 実施方法 現行どおり	

※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。
 ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目標達成度の評価は2つの平均となります。
 ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体に於いて整備しています。

平成29年度実績報告の概要（小規模事業経営支援事業費補助金関係）

団体名： 半田商工会議所

事業名	事業概要（背景・目的）	事業実績	主たる対象者	事業評価															
				目標①		目標②		得られた効果		A B C D評価			今後の展開・改善点等		備考				
				指標	数値	指標	数値	総合評価	実施評価	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法					
商店街・街づくり事業（推進室含む）	市内の商店街の衰退が進み、中心市街地の活気が無くなっている。そこで関係団体である商工会議所、中心市街地3商店街、市商連、株式会社賑わいビル開発・㈱トロワ・アパネの4団体を中心とし、商店街の活性化・まちづくりと中心市街地の活性化を推進する。また、地域住民・事業者・市・会議所が一体となり、地域コミュニティ、賑わい創出、商機強化の各種事業の実施により、交流機能、買い物機能、情報機能等の商業機能を強化し、中心市街地をはじめとする地域の賑わい創出、まちづくりを支援する。	・半田市商業施設助成事業活用事業9事業所 ・知って得するゼミナール36講座。来場者数271名 ・市商連事業「はんだ商業まつりin半田赤レンガ建物」を開催。参加事業所数38事業所 ・中心市街地商業活性化にぎわい事業「はんだまちなかフェスティバル」参加事業所数52事業所 ・まちづくり推進室 賑わいイベント「半田運河CanalNight」開催2日間延べ10,000人来場 ・まちづくり推進室 賑わいイベント「はんだ駅前ミュージックフェスティバル」開催3,500人来場 ・地域交流拠点まちづくりステーションカガシヤにて高校生チャレンジショップなど各種賑わいイベント実施	中小・小規模事業者	指標	半田市商業施設助成事業利用数	指標	知って得するゼミナール参加店の来店客数	総合評価	A	実施評価	B	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法			
				目標数値	10	実績数値	9	目標数値	300	実績数値	271	自己評価	B	調査結果	必要性	A	現状維持	実施方法	
				達成度	90.0%	達成度	90.3%	得られた効果	知って得するゼミナールは、市報に折込することで高い周知効果を得られており、改めて顧客の立場に立った自社商品の説明の勉強に繋がった。半田市商業施設助成事業では、店舗の新設並びに改装に役立っていることができた。商業活性化の事業についても個店の来店客・売上増加に寄与できた。まちづくりについては、地域交流拠点において定期的に各種イベントを実施するとともに、半田運河や名鉄多半田駅前にて賑わいイベントを実施し、中心市街地の魅力を創出できた。			自己評価	B	調査結果	A	現状維持	実施方法		
観光振興・醸すブランド化事業	当地の近代の繁栄を築いてきた産業のひとつである「醸造業」、および生活に根づく「醸造文化」に着目した地域活性化の取り組み「醸-KAMOSU-事業」を生かし、賑わいの創出、販売拡大に繋げることで小規模事業者の振興と経営の安定に寄与することを目的に、交流人口の増加策を企画し、継続的な事業を実施する。また、平成29年10月に開催される「第8回はんだ山車まつり」をフックとした商品開発支援・販促支援を行い、継続的な仕組みを構築するとともに小規模事業者の「稼ぐ力」づくりを行い、小規模事業者の振興に繋げる。	・商品開発・販促促進セミナー・個別相談会実施（食のビジネスフェア あいち知多半島メッセ2018内）…参加事業者数延べ33事業者 ・はんだ醸すごはん事業…参加事業者数延べ106事業者 ・クーポンブック事業…参加事業者数51事業者 ・醸-KAMOSU-博覧会事業…参加事業者数31事業者 ・知多半島観光協議会への参画	中小・小規模事業者	指標	商品開発・販売促進セミナー受講者数	指標	クーポンブック事業参加事業者	総合評価	A	実施評価	B	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法			
				目標数値	20	実績数値	33	目標数値	80	実績数値	51	自己評価	B	調査結果	必要性	A	現状維持	実施方法	
				達成度	165.0%	達成度	63.8%	得られた効果	「食のビジネスフェア あいち知多半島メッセ2018」では、付帯企画として商品開発・販促拡大セミナーを開催。また出展者を対象とした相談会を開催し、お付きと方向性を見出した。交流人口増を目指したクーポンブック事業は観光入込客も含めた取り組みを実施し、事業者の意識づくりを図った。			自己評価	A	調査結果	A	現状維持	実施方法	①現行どおり②変更する	
商談会・ビジネスマッチング事業	展示会や商談会を開催し、市内事業者が参加することにより、事業者の新たな取引先を開拓し、事業の拡大に繋げることを目的とする。事業者の取り組みや新商品等を広く紹介し、ビジネスマッチングの機会を創出する。また、金融機関等との連携を強化し、新たなビジネスマッチングにも取り組む。	◆7/17(木)パートナー発掘市2017（6/19～6/23）：参加事業所2、商談確定件数10 三河、知多地域商談会参加企業数0、受注企業7 ビジネスフェア「あいち知多半島メッセ」出展企業40社（小規模事業者28社）	中小・小規模事業者	指標	アラバパー事業商談確定件数	指標	三河、知多地域商談会参加数	総合評価	B	実施評価	C	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法			
				目標数値	25	実績数値	10	目標数値	10	実績数値	7	自己評価	C	調査結果	必要性	B	現状維持	実施方法	
				達成度	40.0%	達成度	70.0%	得られた効果	商談会に市内事業者が参加することにより、市外の新たな取引先を開拓することができ、事業の拡大に繋げることができた。			自己評価	C	調査結果	B	現状維持	実施方法	①現行どおり②変更する	
部会・委員会事業	最近の企業ニーズに合った事業企画を実施し、事業所のレベルアップを図る。部会・委員会の会議並びに研修会等を通じて事業所間での異業種交流も図られ、経営改善事業との相乗効果が見込まれ、企業発展に寄与する。	部会：会議44回、事業20回 委員会：会議21回、事業7回	中小・小規模事業者	指標	会議・事業実施回数	指標	部会・委員会活動を通じて、地域や中小・小規模事業者の支援になる事業が実施できた。	総合評価	A	実施評価	A	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法			
				目標数値	50	実績数値	92	目標数値		実績数値		自己評価	A	調査結果	必要性	A	上げる	実施方法	
				達成度	184.0%	達成度	%	得られた効果				自己評価	A	調査結果	A	現状維持	実施方法		
検定等支援事業	各種検定試験を実施し、地域の人材育成を支援するほか、地域社会に貢献する。	検定試験の開催 ①珠算・簿記・リテールマーケティング・珠算・PC、②カラーコーディネーター・ビジネス実務法務・福祉住環境コーディネーター・環境検定 検定受験者数①日商検定1,463人、②東商検定230人	中小企業従業員や一般市民	指標	検定受験者数(人)	指標	日商・東商検定を通じて、地域の人材育成に繋がった。	総合評価	A	実施評価	B	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法			
				目標数値	1,800	実績数値	1,693	目標数値		実績数値		自己評価	B	調査結果	必要性	A	下げる	実施方法	
				達成度	94.1%	達成度	%	得られた効果				自己評価	B	調査結果	A	現状維持	実施方法		
福利厚生事業	小規模事業者の健全な経営、雇用を回るため、各種共済制度を普及し、福利厚生の充実を図る。	あおぞら共済加入促進キャンペーン春・秋に実施 共済新規加入者数：151人	中小・小規模事業者	指標	あおぞら共済新規加入者数	指標	春と秋のあおぞら共済加入促進キャンペーンを通じて、従業員が福利厚生制度の提案ができ、共済新規加入151人に繋がる事ができた。	総合評価	B	実施評価	B	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法			
				目標数値	250	実績数値	151	目標数値		実績数値		自己評価	B	調査結果	必要性	A	下げる	実施方法	
				達成度	60.4%	達成度	%	得られた効果				自己評価	C	調査結果	A	変更する	実施方法		
調査・広報事業	内部環境・外部環境の様々な変化が経営に及ぼす影響は大きく、規模の大小を問わず事業者は常にその動向を探り、適応していかなければならない。取りまとめた地域の動向・情報を円滑に提供することにより、経営に資していただく。広報では、会報誌『カイキンゴッポウ』、メールマガジン等を通じて各種情報の発信を行うことで、事業者の経営の方向性を決定する一助を担う。	◆景気動向実態調査先200事業所に、4半期に一度実施。 ◆ホームページ年間アクセス数82,440件	中小・小規模事業者	指標	景気動向実態調査調査先事業所数	指標	ホームページ年間アクセス件数	総合評価	A	実施評価	B	調査結果	満足度	補足	目標	実施方法			
				目標数値	200	実績数値	200	目標数値	75,000	実績数値	82,440	自己評価	B	調査結果	必要性	B	①下げる②現状維持	実施方法	
				達成度	100.0%	達成度	109.9%	得られた効果	調査自体は200件行えたが、情報を取り纏め、円滑提供することはできなかつた。しかし、指通員間で、市内事業者のニーズに関して、把握することができた。ホームページに関しては、ゴッポウとの運動により、施策や事業を広報することで、市内事業者が情報収集することができ、経営の一助となった。			自己評価	A	調査結果	A	現状維持	実施方法		

※ 経営発達支援事業として認定を受けた事業については、備考欄に○を付しています。
 ※ 事業評価欄において、1つの事業で目標が2つある場合、目標達成度の評価は2つの平均となります。
 ※ 記載内容についての詳細資料は、各団体において整備しています。